

ボランティア等との共催事業

WA!んぱくキッズの森もりキャンプ(登録ボランティア自主企画キャンプ)

1 趣旨

立山青少年自然の家の登録ボランティアが、自然の中で元気に遊び、自然体験活動の大好きな子供たちを増やすというねらいの下、小学校低学年を対象としたキャンプを企画・実施している。さらに、ボランティアが中心となって創意工夫した活動に取り組むことで、ボランティアのスキルアップを目指している。

2 期日

- ①平成28年10月29日(土)～30日(日) 1泊2日
- ②平成29年 3月 4日(土)～ 5日(日) 1泊2日

3 対象・定員

- ①小学校1年生 36名
- ②小学校2年生 35名

4 参加人数/応募人数

- ①35名/120名
- ②35名/78名

5 スタッフ

- ① 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学)24名
国立立山青少年自然の家職員
- ② 法人ボランティア(富山大学、富山国際大学)18名
国立立山青少年自然の家職員

6 共催

国立立山青少年自然の家

7 日程

- ① 「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ ～自然の中でタイムトラベル!!～」
平成28年10月29日(土)～30日(日)

	午前	午後	夜
10月29日(土) 1日目	はじめのつどい 班タイム	未来の遊び(シャボン玉) 忍者ごっこ	星をとりもどせ
10月30日(日) 2日目	思い出ふりかえり制作	班タイム おわりのつどい	

- ② 「WA!んぱくキッズの森もりキャンプ ～雪の魔法にかけられて～」
平成29年 3月 4日(土)～ 5日(日) 1泊2日

	午前	午後	夜
3月4日(土) 1日目	はじめのつどい 班タイム	WA!んぱくランドで遊ぼう	雪上キャンプファイヤー
3月5日(日) 2日目	五感を研ぎ澄ませ! アイス作り	ふりかえり おわりのつどい	

8 成果

- 6月に、登録ボランティアを対象にボランティア研修を行ったが、その研修の成果が2つのキャンプに垣間見えた。例えば、「キャンプのねらいについての考え方」「参加児童へのいろ



いろな声かけ」「安全管理の具体的な方法」等である。

決して、マニュアルではないが、研修会で互いの考えを紹介し合ったことで、実際の活動がスムーズに展開することができた側面がある。

また、これまでの歴代先輩ボランティアが企画した資料を参考資料として、企画段階で読み込んだ。このことは、実際の活動のイメージをもつ上で、とても役立ったと思われる。

- リーダーの中でも、「プログラム」と「グループ」に分かれ、担当の「住み分け」を行った。各キャンプ代表者を中心に参加ボランティアが自主的に集まり、企画会議や事前実習を繰り返し行い、プログラム作りに取り組んだ。

ボランティアの主体的な運営で、自然のよさや活動の楽しさを味わうことができる魅力的なキャンプになっている。

参加者にも大変好評で、繰り返し参加希望をするリピーターの児童も多い。

- 秋、冬ともに新しいプログラムをボランティアが考え、実践していくことができた。秋には参加者が入ることができるシャボン玉を作り、冬にはWA！んぱくランドを作って遊んだ。活動の中での子供たちの笑顔にボランティアは満足感を得ることができた。

- 子供たちの実態や天候に合わせて活動プログラムの修正を行うことで事業全体がスムーズに展開された。ボランティアは、どのメンバーも自信をもって活動しており、企画力・運営力などの向上が活動の随所に感じられた。今後も、ボランティア主体の事業形態が続けられることを願っている。

- 数年前に比べ、登録ボランティアの自主企画キャンプは、年間を通じ2本に厳選された。以前は、3～4本であったが、2本程度が適当であろう。



9 今後の課題

- 代表ボランティアとの事前打合せの時間をどのように確保していくかが課題である。メールや電話等が主な打ち合わせ方法であるが、実際に本所職員と代表ボランティアが直接会って話すことができるメリットは大きい。

今年度は、所員が大学に出向き、細かな確認や打ち合わせを行いながら、資料等の受け渡しを行った。

今後も、最終段階での打ち合わせや確認は、互いに顔を合わせて行っていくことが大切である。

- 年度終盤に、本キャンプ（2回）の簡単な報告会（ミニ発表会）があっても、効果的だと思う。
- 共催事業を主催事業にし、その中でボランティアが今までのように主体的な運営をしていくことができるとうい。

秋
キ
ャ
ン
プ



冬
キ
ャ
ン
プ

